

里山グループ

伊良子 和夫

◆記念樹順調に育つ

昨年3月に創立15周年を記念して植樹されたメタセコイア、ラクウショウ、イチヨウそれぞれ2本は活着し、春には芽吹きし、葉を茂らせ、秋には紅葉(黄葉)し落葉しました。今は冬芽を蓄えて芽吹きを待っています。

ところで、メタセコイアとラクウショウはよく似ているのですが、葉の付き方がメタセコイアは対生、ラクウショウは互生の違いで見分けられます。しかし、どちらが対生で互生かすぐ忘れるので、私はメタセコイアから「メタイセイコイア」としてメタセコイアは対生と覚えました。

サワラとヒノキもよく似ているのですが、葉の裏にある気孔線という白い線が、サワラはX型、ヒノキはY型になっています。覚え方は、五十音の「ア・カ・サ・タ・ナ・ハ・・・」の順と、アルファベットの「X・Y・Z」の順を組み合わせます。つまり、五十音で先に出てくるサ行の「サワラはX」、ハ行の「ヒノキはY」と覚えるのですが、覚え方を覚えるのが難しそうですね。

「タテムクヨコエノキ」 何かの呪文のようですが、これはムクノキの皮目が縦で、エノキの皮目が横という覚え方です。

次はコナラとミズナラの違いのジョークです。この話は「渡辺先生と行く芦生の森研修ツアー」での話です。ミズナラの前で

W先生 「葉柄のないのは。」

参加者 「ミズナラ。」

W先生 「葉柄のあるのは。」

参加者 「コナラ。」

W先生 「くさいのは。」

参加者 「・・・？」

W先生 「オナラ。」

渡辺先生は案内の途中でこのような話を挟まれ、ツアーはとても楽しいものになります。

春になったら、メタセコイアとラクウショウを見比べてその違いを確認してください。



エコファームグループ

西出 勉

◆古都の保存と自然的環境の保護

私たちの活動場所は「古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法(古都保存法)」に基づき保存されている。

同様に保存されているところは、鎌倉市、逗子市、京都市、大津市、天理市、桜井市、橿原市、斑鳩町、明日香村、そして、奈良市の10市町村。その奈良市域には、春日山地区(春日大社、春日山原始林、若草山、東大寺、興福寺)、西ノ京地区(唐招提寺、薬師寺)、平城宮跡地区(平城宮跡、聖武天皇陵)がある。

また、歴史的風土とは、わが国の歴史上、意義を有する建造物、遺跡などが、周囲の自然的環境と一体をなして古都における伝統と文化を具現し、及び形成している土地の状況と定められており、歴史的な建造物や遺跡と、それらを取りまく樹林地などの自然的環境が、一体となって古都らしさを醸し出している土地の状況をいう。私たちが活動させていただいているエリアは、その平城宮跡地区である。

私が、奈良・人と自然の会に入会させていただき、活動の初日に樹林地をパトロールしたおりに、何々の丘(名称は忘れました。)の上から眺め、パトロールに同行してくださった先輩が、その丘から遠い彼方に見える建物は何か分かりますかと尋ねられ、私は、ふむ?と考へ、大極殿とちがいますかと答えると、そうですとの答え。そう、私たちの活動の場所から、平城宮跡にある第一次大極殿の屋根を見ることができたことは、私なりに少し感動した。その後、樹林地を歩く機会は少なく、マツタケをつくるための協働作業の時ぐらいですが、古都を保存するにあたり、その樹林地は大変重要な要素である。

これからも活動していくにあたり、興味の範囲を樹林の形成をなすいろいろな木々、植物に目を向け、古都の保存について考えたく思う今日この頃です。

景観グループ

中川 瑛雄



鳥シリーズ

小田 久美子

私はならやまに通い始めて、今年で6年目になります。私は大阪市内で生まれ、育ち、ふるさと、という語源からイメージする、「ふるさと」はありません。シニア自然大学校を卒業して、ならやまへ来る機会を得て、本当に良かったと思っています。ならやまに来て、里山、景観、エコファーム、パトロールと一通り体験しましたが、大した知識もない私が、自然の中で体を動かす事は気持ちがいけれど、ここで自分が継続してできることはあるのだろうか、と考えているうちに、自然に景観グループに入っていました。当時、今の実りの森（第五地区）は松林の森で、周りは笹で覆い尽くされ、刈っても刈っても笹は少しずつ減るだけで、ここが畑になるのはいつやるか、と思いながら作業していました。木も伐採され、笹もチップにされ、開拓された実りの森を見ていると、あの森がこんなになったんだ、と思いながら作業をしています。

2年目の夏、彩の森でポンプを使って水やりをしていましたが、あと少しで全部に水をやれると頑張っって水をやっているうち、気が付けば周りに誰もいなくて、体はだるくなっており、座り込んでしまいました。頑張っって基地まで戻りましたが、ほとんど人がいません。残っている人から水をもらい、平城山駅まで歩きましたが、その遠いこと。ところが駅で水を補給して、クーラーの効いた電車に乗り、長居駅に着き歩き始めると、さっきまで感じていただるさは何だったのか、と思うくらい体が軽い。熱中症だったんだろうと思いました。去年の夏、作業を終え電車に乗って帰りましたが、降りる頃体がものすごくだるくなり、家までの道のりの遠く感じたこと。翌日起き上がることもできませんでした。前の日まで元気だったのが、一日にして起き上がる事も出来なくなるという経験をしました。結局は熱中症でしたが、この先できるだけ長く通えるように、気を付けて作業したいと思っています。

◆「雲鳥（ヒバリ）」の苦勞と対策 富士山へ

オスは字の如く、鳴き乍ら 110m 程の高さまで舞い上がり、20 分程ホバリングして、縄張り宣言(直径 50m 程)



(ヒバリペアY・田中撮影)

と侵入者の見張りをします。どれだけ高く飛べるかは雌へのアピールポイントでもあります。体長は 17 cm、昆虫・植物を食べます。10 年程前から富士山で、十数羽が確認され観察が続けられています。1600m~2100m のスゲなどの低い植物の陰に巣を作ります。開けた草原が広がり、下からの上昇気流で小さな昆虫たちが吹き上げてくるという利点がある一方で、毎日霧が大発生して一日の中での気温差が大きい環境です。昨年のように早い台風が吹き荒れる中では、雨風で親鳥がびっしょり濡れながら一日中雛たちを抱いて過ごします。餌獲りに飛んでも強風で自分自身も吹き飛ばされたりと、大変な環境をわざわざ選ぶのにはどんな理由が考えられるのでしょうか。♪ピーク パーク イが 伏トソ♪ という歌があり、昔から身近なヒバリでしたが、最近住宅開発などで田畑が減り、草地も刈り込まれて住む場所が激減しています。富士山は天敵が少ないのも魅力の一つなのでしょう。北海道の大雪山や浅間山でも確認されていて、野生の強さに感心します。春、ヒバリが鳴いていたら見上げて下さい。皆さんが思うより高い所で鳴いています。

「聞きなし」は、「日一分 日一分 利取る 利取る 月二朱 月二朱」ヒバリは高利貸しで、お日様にお金を貸しましたが、お日様は返すことなくいつも雲に隠れてしまうのです。困ったヒバリは「返さないと利息が高くなるぞ」と鳴くのです。天平勝宝 5(753)年 2 月 25 日(太陽暦 4/3)

大伴家持「春愁三首」の中の一首

「うらうらに 照れる春日に ひばり上がり
心悲しも ひとりし思へば」

名門豪族 家持の心情溢れる名歌です